

第二部

無駄安留記隊  
活動記錄



# 特別講師の講義を聴く

鳥取市立歴史博物館学芸員

佐々木 孝文 講師

二〇〇五年五月二七日(金)

「地誌」とは、ある領域の地理・歴史に関する書物であり、それを通して当時の社会や文化の状況がわかること、そして「因幡の三大地誌」について、『因幡民談記』は因幡最古の地誌、『因幡志』は実地調査の重視、『鳥府志』は精密厳格な史料批判に特徴があることを聴いた。



鳥取県立博物館学芸員

山下 眞由美 講師

二〇〇五年六月二日(水)

鳥取県立博物館には、橋本秀峰「因幡伯耆名勝図」、伝沖一峨「因幡八景図」、根本幽峨「因幡八景図」襖等々の、因幡国の風景を描いた絵が所蔵・寄託されている。これらを実見しながら、描かれた名勝、作者などについて聴いた。



鳥取市立歴史博物館学芸員

伊藤 康晴 講師

二〇〇五年七月八日(金)

加路(賀露)、小山(湖山)の図像が、『因幡民談記』、『山水奇観』の「加路小山」、初代広重の「加路小山」、三代広重の「湖山の池」と受け継がれ変貌していく過程をたどり、湖山池に焦点が絞られるとともに、視点が「高視点広角平面描写」から「低視点一方向立体描写」へ推移していったことを聴いた。



## 調査に出かける（第一回）

【調査日】二〇〇五年八月五日（金）

【調査地】観音院、樗谿神社、楓亭、秋葉山溜池、戦場ヶ平、継子落し滝、多鯰ヶ池、犬橋、他

真夏の非常に暑い日でしたが、前期試験がやっと終わって日程が組めたので出かけました。暑かったのと、山道を歩くと蚊などが怖かったのとで、比較的簡単に行けるところばかりを選んだのですが、そのことで後々まで苦労することになりました。



## 「まなびピア」に参加する

### ○ 「地域文化調査実習」 成果報告会

【開催日】二〇〇五年一〇月一〇日（月）

【会場】鳥取大学生涯教育総合センター

発表は八月に調査した箇所を九人それぞれが取りあげました。準備にずいぶん時間をかけたので、初めてにしてはうまくできた方ではなかったでしょうか。



### ○ パネル展示

【展示日】二〇〇五年一〇月二日（火）～三日（水）

【会場】鳥取県観光物産センター

同じく八月の調査をパネルにし、展示しました。パネル自体のときは悪くなかったのですが、展示場所が観光物産センターの二階の奥のスペースで、訪れる人は多くはありませんでした。写真には人がたくさん写っていますが、ほとんどは地域文化学科の一年生です。



## 調査に出かける（第二回）

【調査日】二〇〇五年一月五日

【調査地】興禅寺、芳心寺、荒神社、吉川氏古墳、大応寺、弁天島、柳茶屋、道光坊墓、元交が入戸、毘沙門天、他

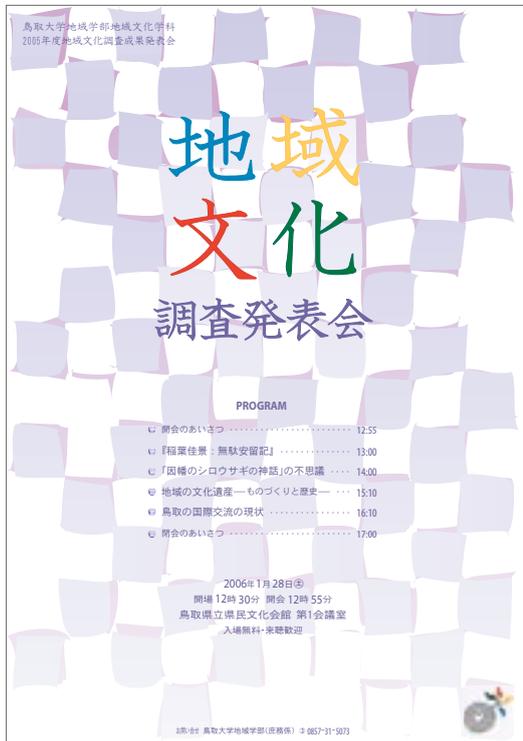
一回目よりも能率的にと、二つのグループに分かれて出かけました。雨が降りそうでしたが、なんとか一日中調査を続行できました。風が強く、枯葉が空に舞っているのがあちこちで見られたことが印象的でした。



# 地域文化調査発表会で報告する

【開催日】二〇〇六年一月二十八日（土）  
 【場所】鳥取県立県民文化会館第一会議室

まなびピアでの発表とはまた別のところを選んで、それぞれが発表しました。学外での公開の発表会ということでもかなり緊張した様子でしたが、かえってその緊張感がよい結果をもたらしたのかもしれない。



## 発表会で配布したハンドアウト

地域文化調査委員会  
鳥取大学地域学部地域文化学科 無駄安留記録

県民文化会館第一会議室  
2006年1月28日

**無駄安留記**

無駄安留記について

因幡国の各郡内の風景・景観・名所・旧蹟について、簡略な地誌的記述や絵、狂歌（和歌）をもって撰じたもの。  
著者は米逸成。安政五年（1858）に上・下巻が明治九年（1876）頃までに拾遺巻成立。その間上・下巻に加筆。

大宝山芳心寺（担当 井七恵）

- 池田家との密接なつながりをもつ
- ハケ寺に列す
- 寺の名は、池田光仲の正妻・芳心院（茶々姫）に由来
- 庭園は「鶴亀の庭」と呼ばれる

「谷深く岩山高き貌にも作りし人の心をぞ知る」

龍峯山阿彌寺（担当 塚本実沙）

- 元々は広徳寺（現・岐阜県大垣市）
- 開山は京都妙心寺の湖叔宗永
- 三河、越前、岡山へと場所を移す
- 湖叔死去に伴い、菩提を開祖とし広徳山龍峯寺へ改名
- 寛永九年（1632）に開創
- 鳥取城下の龍濟寺が龍峯寺に
- 元禄七年（1694）寺号が妙心寺に遷される
- 現在の興禅寺に

1

喜見山摩尼寺、奥の院・立岩（担当 松井陽子）

- 承和年間（834-848）慈覺大師円仁開山
- 本尊は帝釈天
- 摩尼山は、死者の靈魂が集まる場所と信じられていた
- 摩尼寺からの山道に奥の院と立岩がある
- 立岩は帝釈天出現の地といわれる
- 産見長者の帝釈天伝説がある

児ヶ松（担当 山本香織）

- 摩尼寺から福部村に抜ける林道にあるとされる
- ルート上の仁王門は摩尼寺の中で最も古い建造物
- 児ヶ松からは瀬山池（現・福部村瀬山）が見えた
- 現在池は消失

「因幡志」に「児ヶ松」の字あり  
※「児」は「見」と同字

源兵衛茶屋（担当 前川祐次）

『無駄安留記』の記載

「奇蹟の田楽名物ながら味なし。山谷といひ精進なれば、是にて弁当の用を講ぶるなり」

「いにしえを捨すにさすや田楽の串竹幾世経ぬらむ」

道光坊の墓（担当 神道浩平）

- 源兵衛茶屋の背後の山腹にある石碑
- 「不動明王」との刻字
- 道光坊・摩尼寺の住職であった道光和尚
- 道光は秀吉の鳥取攻めの際に激しく応戦した
- 結果守護できず悔やんで自害
- 他の地誌にもいくつか見られ、伝説にもなっている
- 『無駄安留記』の絵と現在の石碑に位置のずれ

2

愛宕山金剛院（担当 小川千賀子）

- 久松山の近くに位置する
- 別名庵金山
- 本尊は行基の作との伝説
- 祭りは素手に行われた
- 丑の刻参りの舞台でもあった

弁天島（担当 安達礼）

- 陸続きの時期もあった
- 寛文十三年（1673）に再び中島になったとされる
- 現在は中洲
- 元は三島大明神の廟所（『因幡叢書』、『因幡民談記』）
- 水上交通の神の社があった
- 現在は福神をまつ神社
- 昔は観光地でもあった
- 「老松」の姿は『鳥府志図録』にも見られる

大応寺観音堂（担当 米村祐紀）

- 元々は大同二年（808）の延鎮による円城寺だが、元の位置は不明
- 天正九年（1581）戦火に遭う
- 貞享年間（1684-1687）に本尊の観音像を安置するための庵を建立
- 大応寺の前身
- 度重なる火事により観音像も損失
- 現在の建物は昭和49年建立のもの
- 『無駄安留記』上巻の記載「境内桜樹数本あり。中春のころは遊客不斷、佳景不尽言盡」

☆地域文化調査 無駄安留記録の調査結果は、下記 URL にて公開中です☆  
<http://www.fed.tottori-u.ac.jp/~ibaraki/mudaaruki/mudaarukitai.html>

3

【MEMO】

☆この絵は無駄安留記の図を加工したもので、実物とは異なります☆  
2005年度無駄安留記録

4

著作権の都合で掲載していません。

『日本海新聞』  
二〇〇六年一月一日

---

著作権の都合で掲載していません。

『山陰中央新報』  
二〇〇六年一月一九日